

# 一中ハンド部男子が全国大会へ

## 一中ハンド部は なぜ強いのか？

「第31回福島県中学校新人ハンドボール大会」は11月12、13日の両日と1月21日、本宮市総合体育館で行われ、本宮第一中学校ハンドボール部男子が優勝した。

昨秋、2年生を中心とした新チームが発足して以来、めきめきと力をつけてきたハンド部男子は、1回戦2回戦とも他を寄せ付けない圧倒的な強さで勝ち上がった。準決勝の内郷一中を38・25で下し、迎えた決勝戦。2年連続春の全国中学校ハンドボール選手権大会（春中）に出場している覇者・郡山一中との一騎打ち。前半を14・10で競り勝ち、後半では持ち前の走りでリードを許さず、25・21で勝利した。

来月には全国大会への出場が控えている一中ハンド部。男女とも県大会・東北大会の常連だ。またこれまで、男子が全中大会に1回出場。女子が全中大会に1回、春中大会に2回出場している。強豪・一中ハンドボール部はいかにして作られたのだろうか。



# 国体以来続く 本宮とハンドボール その深い関わり



## 本宮が国体ハンド会場に

本宮でハンドボールが知れ渡るきっかけになったのが平成7年に開催されたふくしま国体だった。本宮は国体のハンドボール競技の会場となることが決定し、総合体育館と本宮体育館（現本宮一中体育館）を整備した。それに合わせ、まちの人にもハンドボールを知ってもらうと、さまざまな普及活動を行った。

当時、本宮高校ハンド部を率い県大会優勝、全国高校総体出場に導いた石井義国先生をはじめ、多くのハンドボール経験者の協力を得ながら、平成2年にハンドボール協会



民泊をきっかけにまち全体にハンドボールが知れ渡る

を設立。少年・少女ハンドボール教室や町民ハンドボール教室、ママさんハンドボール教室などを開催。ハンドボールという競技に触れる機会が広がっていった。

そうしていよいよ始まったふくしま国体では、全国から32チームが本宮を訪れた。彼らの宿泊先は、各地区町内会の協力を仰いで、民泊という形をとった。町内会の皆さんはチームを歓迎し、そこで交流が生まれた。民泊先の家族は福島チームと宿泊しているチームを応援し、まち全体のハンドボール熱が高まっていった。

## 広がるハンド人口

平成3年には、本宮一中・二中にハンドボール部が設立され、翌年には本宮ハンドボールスポーツ少年団が誕生した。当初は、本宮小学校の児童でスタートするが、その後各小学校から入団する児童も始め、子どもたちの競技人口が徐々に増えていった。

小さい頃からハンドボールに親しみ、チームワークを磨いてきた子どもたちが力をつけてきている。

昨年は、スポ少・一中ハンド部OB・OGに国際大会まで出場する選手も出てきた。国士館大の阿部奎太さんは、バーレーンで行われたアジア男子ユース選手権に出場。大阪体育大の佐原奈生子さんはスペイン開催の世界学生選手権に出場。活躍の場を大きく広げている。

左：国士館大ハンドボール部で活動する阿部さん  
右：大阪体育大で活動する佐原さん

